



遊 鳳 舎

公園の歴史を見守り続ける大正生まれの休憩所 映画『妻の心』では喫茶店として登場

桐生が岡動物園の南門前、女神像前広場の一角に佇む休憩所。馴染み深い存在ながら、この休憩所に「遊鳳舎」の名が冠され、大正時代から当地に集う人々を見届けてきた歴史深い建物であることは、あまり知られていないのではないだろうか。

現在の桐生が岡公園の歴史は古く、明治28年（1895）に、美和神社周辺の一大公園化への思いがあった当時の桐生町長の小島春比古が、所有する自宅と敷地を更地にして寄附したことから始まる。その後、周辺の土地を所有していた森宗作や本多七九郎、町内有志らが自費を投じて整備を進め、公園としての体裁が整った大正4年（1915）に休憩所として建てられたのが、この遊鳳舎だ。これらの敷地も翌大正5年（1916）に桐生町へ寄附され、市制施行を経て現在に至るまで、市営公園として多くの人々に憩いの場を提供してきた。

遊鳳舎は長い歴史を誇るだけでなく、実は映画に「出演」した過去がある。その出演作は、井手俊郎のオ

リジナル脚本を成瀬巳喜男が監督し昭和31年（1956）に公開された映画『妻の心』。同作品内で、高峰秀子と三船敏郎の演じる人物が雨宿りをする「喫茶店」として撮影された建物が、まさにこの遊鳳舎なのだ。

実際に遊鳳舎で喫茶店営業をした歴史は無く、店舗什器等もロケのために用意されたセットだが、映画史に名を刻む2人のスター俳優により、同作品中でも殊に印象深い一コマが、この建物で演じられたのである。

老朽化が進んだ遊鳳舎は令和5年（2023）、桐生市の整備により綺麗に改修されたが、現行基準に照らしつつ改修前の姿を概ね踏襲し、大正4年当時から扁額も引き続き掲げられた。

これから
も来園者の
憩いの場と
して、集い
語らう人々
を静かに見
守り続ける。



【遊鳳舎】

●住所／桐生市宮本町3-8-13

桐生が岡動物園南門前（女神像前広場）